様式３

令 和 ６ 年 度 自 己 評 価 表

鳥取県立八頭高等学校
令和７年３月

【中長期目標(学校ビジョン)】

1　主体的で深い学び、幅広い学びをとおして、学問への興味・関心や実践力を養い、社会参画力、課題対応力を育成する。
2　地域に学び、地域に貢献する態度を育てることをとおして、ふるさとを愛し、社会の平和と発展に寄与する実践力を育成する。
3　協働的に試行錯誤、切磋琢磨しながら学び、自身の夢の実現に向け、努力する力を育成する。

【今年度の重点目標】

1　生徒の進路希望の実現にむけた支援
　①　基礎学力の充実
　②　授業改善の推進
　③　探究活動の充実
　④　進路実現への支援
2　心身の健全な発達の促進と主体性の伸長
　①　基本的生活習慣の確立
　②　規範意識の高揚
　③　多様性に配慮した他者理解力の育成
　④　部活動の推進
　⑤　学校行事への積極的関与
3　生徒・保護者・地域に信頼される学校作り
　①　地域貢献活動の推進
　②　情報発信の推進
4　業務改善の推進
　①　時間外業務縮減への意識

評価項目	評価の具体項目	令和６年度当初			評価結果（３月）		
		現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1　生徒の進路希望の実現に向けた支援	基礎学力の充実	・自宅学習時間調査(11 月)では、1 週間の平均で 1 日当たり、1 年 86.4 分、2 年 84.2 分、3 年 133.4 分であり、昨年度調査よりも減少した。 ・授業評価アンケートでは、学習内容に興味、関心を持ち、意欲的に取り組む生徒の割合が、1 年 85%、2 年 82%、3 年 89%。	・自宅学習時間は、1 週間平均で 1 日当たり、1、2 年が 120 分以上、3 年が 200 分以上。 ・学習内容に興味、関心を持ち、意欲的に取り組む生徒の割合が、各学年とも 90%以上。	・自宅学習調査を定期的に実施し、学習状況を把握した上で学習習慣の定着を図るよう指導する。また、学習支援サービスの活用を促す。 ・模擬試験の成績状況を分析し、基礎学力向上のための対策を実施する。	・11 月期末考査直前に実施した自宅学習時間調査では、1 週間の平均で 1 日あたり、1 年 153.4 分、2 年 151.8 分、3 年 185.9 分だった。例年は平常時の調査を行っているため、過年度との単純な比較は難しいが、考査直前としては少ない。 ・学校評価アンケートでは、学習内容に興味、関心を持ち、意欲的に取り組む生徒の割合が、平均 90%(昨年度 89%)。 ・共通テストの自己採点集計を見るとほぼ例年並みの成績であったが、例年 SS40 に届かない科目があり固定化している。	C	・各教科科目でより具体的な学習方法を示しながら、継続的な自宅学習に向けた支援を行う。 ・面談を通して学習への取組方法を支援する。 ・Classi やスタディーサプリなどの学習支援サービスの有効な活用方法を共有する。 ・模試の結果などを参考に各教科で学習状況について検討し、従来の指導の在り方を見直していかなければならない。
	授業改善の取組	・昨年度は全 9 教科で計 17 回の公開研究授業を実施し、教員間で授業改善の情報共有に努めることができた。 ・主体的、対話的で深い学びを促進する授業改善をねらいとした校内職員研修を 2 月に実施し、職員のスキル向上を図った。	・全教科で研究授業、公開授業を総計 25 回以上実施し、他教科の授業も参観することで授業改善の参考とする。 ・教材の工夫や ICT の活用により、生徒の活動場面が増え、生徒が主体的に取り組む授業が実践される。	・全教科による研究・公開授業や校内研修を実施し、教科の枠を超えた授業改善に取り組む。	・本年度は 5 名のエキスパートによる公開授業 12 回を含む年間 25 回の公開授業が行われ、授業改革の契機となった。 ・ICT 担当教員による教職員向け希望者参加のクロムブック活用研修を 6 回開催し、生徒が主体的に取り組む授業づくりの一助となった。	A	・教科を問わず年間 2 回以上公開授業の参観を行い、自己の授業改善に活用する。 ・ICT 活用の教職員研修を今後も継続して実施する。
	探究活動の充実	・探究部の調査(1 月)において、探究活動により思考力等が向上したとする生徒の割合は 38.3%。	・探究活動をとおして、思考力等が向上したとする割合が 60%以上。	・主体性等の評価の研究、指導方法の研究(問いづくり・情報分析)を推進する。	・探究活動のプログラムの改良を継続的に行っている。 ・生徒の思考力や実行力を向上させるために、思考ツールや整理シート等の活用を促した。生徒の知識獲得は向上したが、情報が分散してしまう傾向があり、その情報を分析する思考力向上には至らなかった。 ・第 2 回アンケート(1 月)において，思考力や実行力等の向上意識の割合「はい」34.7%(R6_1 回/39.9%，R5_2 回/38.3%) ・2 年翠陵探究や探究ゼミで、鳥取大学連携、公立鳥取環境大学連携、企業連携、八頭町議会連携を実施した。	C	・探究活動を主体的な活動とするためのプログラム開発は今後も検討が必要 ・評価基準の検討を継続し、より確度の高い評価方法を構築する。 ・生徒の校外の発表会への参加を促す。また、職員の研鑽を積む場であるため、積極的な参加・見学を促す。

評価項目	評価の具体項目	令和６年度当初			評価結果（３月）		
		現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 生徒の進路希望の実現に向けた支援	進路実現への支援	・学校評価アンケート(11 月)では、進路実現に向けて努力している生徒の割合は 79%。 ・進路志望調査(10 月)では、4 年制大学を志望している生徒が 1 年 162 名(68.0%)、2 年 169 名(71.3%)、3 年 185 名(78.2%)であり、そのうち国公立大学志望者は 1 年 138 名、2 年 120 名、3 年 102 名であった。 ・令和 6 年度入試で共通テストの出願は 121 名(50.4%)であり、国公立大学の現役合格者数は 53 名。	・進路実現に向けて努力している生徒の割合が全体で 90%以上。 ・国公立大学の現役合格者数が 50 人以上。	・高い志望を掲げ努力する生徒を育成するために、各類型の特色を踏まえながら進路関係行事を充実させ、生徒の進路志望の実現を図る。	・進路志望調査(10 月)による国公立大学志望者は 1 年 115 名(47.9%)、2 年 123 名(53.2%)、3 年 102 名(44.2%)であり、国公立大学の志望者が 1 年で昨年同期より 23 名減少している。私立大学を含めた 4 年制大学の志望者は 1 年 143 名(59.6%)、2 年 163 名(70.6%)、3 年 165 名(71.4%)となっており、特に 1 年生の減少が見られ、進路志望未定の生徒が 60 名(25%)と例年に比べて非常に多い。2,3 年生についてはほぼ例年並みの状況。 ・令和 7 年度大学入学共通テストの出願は 113 名(48.9%)であり、昨年より 8 名(3.5%)の減少。 ・共通テストを課さない国公立大学の総合・推薦入試において 17 名(昨年比 3 名増)の生徒が合格。	C	・特に 1 年生について、進路 LHR や講演会など通じて、進路意識を高めるための取組を検討する。 ・主体的に進路情報を収集、活用できる環境を充実させる、情報端末を使用した情報収集や学習ができるようにする。特にクロムブックで収集した情報をプリントアウトできる環境にすることが急がれる。 ・面接指導や LHR で活用できる資料を紹介、提供する。 ・各大学の入試結果や志望動向をもとに入試情報を分析、研究する。 ・講演会などを活用して国公立大学の魅力を伝え、進路学習を充実させる。 ・小論文研究委員会の活動をもとに、小論文（面接など）の個別指導を積極的に行うとともに、教員の指導スキルアップを図る。
2 心身の健全な発達の促進と主体性の伸長	基本的生活習慣の確立	・生活リズムアンケート(10 月)では、午前 0 時以降に就寝している生徒の割合が 40%、睡眠が足りていないと感じている生徒の割合は 66.5%、毎日朝食を取っている生徒の割合は 90.4%。 ・学校生活アンケート(1 月)では、スマートフォンの使用について家庭でルールが決められている生徒の割合は 38.8%、平日 1 日平均 3 時間以上使用している生徒の割合が 24.9%。	・睡眠が足りていないと感じている生徒の割合が 40%以下、毎日朝食をきちんと取っている生徒の割合が 95%以上。 ・スマートフォンについて、家庭での使用時間や時間帯についてルールが決められている割合が 70%以上。	・生徒保健委員会による「八頭高スマートプロジェクト」を実施し、生徒が自主的に生活習慣を整えることができるよう支援する。 ・日頃から学習規律の確立及び定着を図るよう指導し、スマートフォン・SNS の使い方については講演会や LHR を実施することで、生徒の自己管理能力の育成に取り組む。 ・生活習慣づくりに関する保護者研修会を実施する。	・「健康教育アンケート」の結果による「睡眠が足りない生徒が 75.3%、就寝 30 分前のスマホ使用 87.9%、毎日朝食摂取 91.6%内容は主食だけ 30.4%」等の課題について、保健委員が学校祭で「スマートライフプロジェクト」の啓発活動を行い、睡眠に関する健康教育 LHR を実施した。また、学校保健委員会では、生徒、保護者、有識者を交えて課題解決に向けて協議した。 ・スマホについて家庭でのルールがある割合は、1 年：51.6%、2 年：34.8%、3 年：26.9%であった。 ・PTA と連携した保護者対象の食育研修会を実施した。	D	・学校保健委員会、PTA 研修会に参加した保護者のメッセージをホームページや保健だより等で紹介し、生徒、保護者に対して食育の推進を図る。 ・全校生徒対象の食育講演会の実施や各教科と連携しながら、生徒が心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理していく能力を身に付けさせる。 ・睡眠時間を確保するための生活習慣の工夫等について、保健委員を中心に生徒主体で考えさせる。 ・引き続き PTA 研修会を実施し、家庭教育の充実を図る。
	規範意識の高揚	・学校評価アンケートでは、100%の生徒が学校で定められたルールやマナーを守るよう心がけている。なお、生徒がルールやマナーを守っていると評価している保護者の割合は 97%、職員の割合は 89%。	・ルールやマナーを守るよう心がけている生徒の割合が 98%以上。 ・改正した校則やマナーを守った上で、生徒の主体的な活動により、校則の意義を考え、必要な見直しが行われている。	・挨拶の大切さやルール・マナーを遵守する意義を理解させ、自主的に守るよう指導する。 ・令和 7 年度の制服の変更にあわせ校則の見直しを行う。その際、生徒が主体的に参加するように支援する。	・ルールやマナーを守るよう心がけている生徒の割合は 99%であった。 ・生徒は挨拶やルールを守ることの大切さを概ね理解している。スマホ、クロムブックの利用については、校内での不正使用、家庭での利用時間、SNS でのトラブル、個人情報の取扱等に課題がある。 ・校則の見直しについては、生徒アンケートの回答も参考にしながら、生徒代表をメンバーに加えた校則検討委員会で協議し、「校則を考える期間」を設けるなど、生徒が校則について考え、見直しに主体的に参加するように取り組んでいる。	B	・生徒自身がスマホや SNS を正しく利用するために、情報活用能力の育成とインターネット上の個人の権利に触れる指導を行う必要がある。 ・生徒の多様化が進み、様々な困難や課題を抱える生徒が増えているため、発達指示的な生徒指導を展開していく。 ・校則が、生徒の実情や時代の変化等を踏まえたものになっているか、絶えず見直していくために、適宜校則検討委員会を開催する。

評価項目	評価の具体項目	令和６年度当初			評価結果（３月）		
		現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
２ 心身の健全な発達の促進と主体性の伸長	多様性に配慮した他者理解力の育成	・学校評価アンケートでは、生徒 87%、保護者 77%が、学校は心身の悩みに関わる相談について適切に対処していると考えている。 ・生徒 82%、保護者 72%は、学校が保護者(家庭)と連携して教育活動を行っていると考えている。	・生徒の心身の悩みに適切に対処していると回答する生徒の割合が 85%以上、保護者の割合が 80%以上。 ・保護者(家庭)と連携して教育活動を行っていると回答する生徒の割合が 85%以上、保護者の割合が 80%以上。	・多様性を尊重する態度や互いの良さを生かして協働する力を身に付け、他者への共感や思いやりなどの豊かな人間性を育む教育を推進する。 ・日頃の観察や面談、心理検査等をとおして生徒理解を深め、適切な指導・支援を行う。 ・家庭や地域との連携を密にし、地域全体で生徒の健全育成に取り組む。	・生徒の心身の悩みに適切に対処していると回答する生徒の割合が 85%、保護者の割合が 72%であった。 ・保護者(家庭)と連携して教育活動を行っていると回答する生徒の割合が 77%、保護者の割合が 75%であった。 ・生徒同士が、相手の個性や意見の違いを認められないことから、人間関係のトラブルに発展しており、相手を意識したコミュニケーション力を育てる必要がある。 ・きめ細かい観察や面接、保護者との対話を深め、さらに、他の教職員との情報共有や連携を深めることで、生徒に関する幅広い情報の収集と多面的な理解に努めた。 ・PTA のあいさつ運動やピンクシャツデー、愛し愛され運動等を実施し、家庭や地域の保育所、小学校、中学校と連携して生徒の健全育成に取り組んだ。	B	・生徒が対話する機会を増やしたり、他校種や異学年、地域の人々と関わったりするなど、多様な他者との協働的な学びに積極的に取り組む。 ・「学校生活アンケート」「Hyper-QU」の調査結果を踏まえ、要支援生徒を中心に、悩みを抱えている生徒の情報共有を行う。学力不振の生徒には発達検査を行い、不振の原因を明確にし、対応策を提示していく。また、家庭や SC、SSW、関係機関等と協力しながら適切な支援を行う。 ・人間関係がまだ十分に育っていない年度当初に、生徒同士の円滑な人間関係の形成を促すための指導を行う。
	部活動の推進	・学校評価アンケートでは、部活動に所属する生徒のうち、学習との両立に向けて努力していると回答した生徒は 40%、ややできている生徒が 40%であったが、あまりできていないと全くできていないという生徒は 20%。 ・全国大会へ出場した生徒は 44 名(実人数)。	・学習と部活動の両立に向けて努力している生徒の割合が 60%以上。 ・全国大会に出場する生徒数が 50 名(実人数)以上。	・生徒が向上心と意欲をもって粘り強く取り組めるよう的確な方針や目標・計画等を設定するとともに、学習との両立を支援する。	・全国大会に出場した生徒数は以下の 34 名。(昨年度 44 名) 陸上競技 3 名、ホッケー男子 18 名、柔道 7 名、弓道 1 名、放送４名、スキー1 名 ＊スキーは陸上競技と重複するため実人数は 33 名 ＊ホッケー男子国スポ・選抜：優勝 弓道選抜：入賞 放送高総文祭：入賞	B	・団体競技での全国大会出場が年々減少している。競技力向上につながる効果的な練習内容を各部活動で実施する。 ・3 年間部活動を継続するための文武両道と良好な人間関係を構築することも重要視する。 ・目標設定と目標達成のための取り組みを顧問、部員、保護者で共有し一丸となった取り組みを実施する。
	学校行事への積極的関与	・学校評価アンケートでは、HR 活動や生徒会活動、学校行事で主体的に活動していると回答した生徒は 89%。	・HR 活動や生徒会活動、学校行事で主体的に活動している生徒が 80%以上。	・諸行事や学校生活等の様々な場面において生徒が主体となって企画し、実施できるよう支援するとともに、その方法を下級生に引き継ぐことができるよう指導を行う。	・生徒会執行部が主体となった学校祭が実施できた。内容の見直しや新たな企画に取り組むことができた。実施に向けて早期から始動し、前年度の反省を踏まえながらより良い行事が実施できるように検討しながら本番を迎えるように進めることができた。	B	・学校祭においては企画部、生徒会執行部への負担が偏っている点もあり、各係への業務依頼や執行部以外の生徒の関わりの場面を増やせるように進めていく。
３ 生徒・保護者・地域に信頼される学校作り	地域貢献活動の推進	・学校評価アンケートでは、学校が地域と連携した教育活動に積極的に取り組んでいると回答した生徒は 89%。 ・探究活動により、地域理解が深まったとする生徒の割合は 38.3%。 ・昨年度第 1 回愛し愛され運動(6 月)には、413 名(全校の 57.9%)の生徒が参加。第 2 回(10 月)では 1、2 年を中心に 342 名(全校の 47%)が参加した。	・学校が地域と連携した教育活動に積極的に取り組んでいると考える生徒が 90%以上。 ・地域理解が深まったとする生徒の割合が 60%以上。 ・「愛し愛され運動」への参加者が各回とも全校生徒の 40%以上。	・地域の清掃活動や挨拶運動、保育所や福祉施設との交流行事に積極的に取り組み、地域を愛する心を育む。 ・小中学校との交流行事や探究活動での地域及び企業等との連携を充実させ、生徒が自身の生き方、あり方を考えられる機会とする。	・6 月に実施した「第 1 回愛し愛され運動」には部活動を主体とした 322 名（全校生徒の約 45%）が参加し目標を上回った。「第２回愛し愛され運動」は新たな取り組みとして個人申込の生徒 40 名で保育所の清掃活動を実施し高評価を得た。 ・体育類型による郡家西・東小学校スポーツテスト補助を実施した。 ・翠陵祭に地域の団体を招き模擬店での飲食物の提供をしていただいた。 ・12 月に保育園児を招き体育類型、翠陵探究の保育グループを中心とした行事を実施した。 ・八頭高ライフ体験は本校生徒と中学生との直接的な関わりを中心とし、少人数単位でのグループ活動を実施した。対話的な活動となり活発な取り組みが実施できた。	B	・新たな取り組みに対して発展的な継続となるように、振り返りや検証を十分に重ねていく。 ・交流が単発の交流やその場限りの活動とならないよう、事前学習・事後学習も含めて系統的な一連の教育活動として計画する必要がある。

評価項目	評価の具体項目	令和６年度当初			評価結果（３月）		
		現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
３ 生徒・保護者・地域に信頼される学校作り	地域貢献活動の推進		前ページの続き		・鳥取県社会福祉協議会福祉学習推進事業実践指定校として、生徒が八東赤十字奉仕団、郡家地域３保育所と交流することから福祉課題や地域課題に気づき、その課題を解決しようとする態度を養うことに取り組んだ。 ・2 年翠陵探究の鳥取大学連携・企業連携を計画通り実施。特に企業連携では、生徒の探究テーマに合った連携を実施できた。 ・第 2 回アンケート(1 月)において，地域理解の深まりの意識の割合「はい」29.4%(R6_1 回/33.8%，R5_2 回/38.3%)。探究テーマの地域色が薄まったため、地域理解の深まりの意識が低迷した。ただし、地域課題等をテーマとするチームでは、フィールドワーク等が増え、地域との連携が増加した。 ・3 年探究チームの数チームは八頭町内の小中学校を訪問し，成果発表や交流会を実施した。	B	・2 年翠陵探究では、各チームのテーマが地域に関わっていない場合でも、探究の過程において、地域に関連付けて分析したり、まとめたりする視点を促す。 ・ふるさとキャリア教育の観点で、小中高の交流会を引き続き実施する。
	情報発信の推進	・学校評価アンケートでは、学校のホームページが学校の様子をよく伝えていると回答した生徒が 81%、保護者が 74%。	・ホームページや SNS により、学校の様子をよく伝えていると考える生徒、保護者がともに 90%以上。	・学校の様子を分掌や教科、部活動などの単位で HP 等をとおして発信する。	・学校行事毎に HP の更新を随時行うように努めた。 ・学校評価アンケートでは、ホームページや SNS により、学校の様子をよく伝えていると回答した生徒が 88%(昨年度 81%)、保護者が 80%(昨年度 74%)。SNS の活用により、昨年度より向上した。 ・今年度よりしばらく途切れていた八頭高だよりを掲載した。来年度も実施していきたい。 ・探究活動の行事の様子をＨＰで発信することができた。	B	・分掌、部活動単位での HP 担当者を決め学校の魅力発信につながる HP 作成を実施する。 ・引き続き、積極的な発信に努める。 ・PTA の活動も含め、学校の魅力発信につなげる HP の作成に心掛ける。
４ 業務改善の推進	時間外業務の縮減への意識	・例年を踏襲している行事が多く、全体をとおして日程が詰まっており、時期によっては行事、会議が集中することがある。 ・令和 5 年度、時間外在校等時間が月 45 時間を超えた教職員が月平均 9.0 名、年間 360 時間を超えた教職員が 20 名。 ・令和 5 年度、年次有給休暇取得状況は、1 人当たり 13 日。	・できるだけ縮減する方針で行事の見直しが行われ、会議は短時間で効率よく終わる。 ・時間外在校等時間が月 45 時間を超える教職員が月平均 5 名以下、年間 360 時間を超える教職員が 10 名以下。 ・年次有給休暇取得が 1 人平均 14 日以上。	・会議が短時間で効率よく終えられるよう、校内掲示板を積極的に活用する。 ・行事、会議の開催ごとに、その効果と課題を検証し、今後の改善に繋げる。また、業務のあり方を検討し、業務の効率化と精選を行う。 ・学事システムの効率的な活用。 ・特に、予算に関わる事業については、その都度検証を徹底し、早期に方針を立てることでより効果的な事業を構築したり、効果が十分でない事業は廃止したりと精選を図る。	・設定時間内に会議が終了せず、十分な協議がされずに終わることが多い。 ・週 2 回 8 限があることにより、それ以外の曜日に会議や行事が集中しやすい状態だった。 ・探究活動については、予算のともなう事業を一部精選した。 ・同窓会、寮業務の課題を検証し、今後の改善につなげる部分もあった。PTA 活動における会議の短縮化に努めた。 ・今年度 1 月時点で、時間外在校等時間が月 45 時間を超えた教職員が月平均 10 名、年間 360 時間を超えた教職員が 17 名、年次有給休暇取得状況は、1 人当たり約 11 日。	C	・職員会議への提案をする前の段階で学年、分掌内で協議し連携を十分に図る。 ・次年度は 8 限授業の解消を行う予定。これにより、放課後の会議や行事が急増しないよう、行事や業務の効率化と精選を引き続き行う。あわせて、個人レベルでも意識して個々の業務の効率化、精選に取り組む。 ・探究活動について、事業の効果を検証し、事業の精選を継続する。 ・同窓会、寮、PTA の業務や活動の精選を図り、より効果的で有効な体制を構築する。

評価基準　Ａ：十分達成［100%］　　Ｂ：概ね達成［80%程度］　　Ｃ：変化の兆し［60%程度］　　Ｄ：まだ不十分［40%程度］　　Ｅ：目標・方策の見直し［30%以下］